

新カリキュラムに基づく 相談支援従事者養成研修モデル研修



埼玉県のマスコット「コバトン」

初任者研修 #5-#7



特定非営利活動法人埼玉県相談支援専門員協会

研修 5～7 日目（演習 2～4） スケジュール

● 演習第 3 日目 (1月12日)

川越市東部地域ふれあいセンター 多目的ホール

時間	所要	小单元	内容
9:30～12:00	150	演習2-1	実践研究1 演習 ※グループ毎での休憩を含む
12:00～13:00	60		昼休憩
13:00～16:30	210		実践研究1 演習 ※グループ毎での休憩を含む
16:30～16:40	10		休憩
16:40～17:10	30		演習振り返り

● 演習第 2 日目 (1月13日)

川越市東部地域ふれあいセンター 多目的ホール

時間	所要	小单元	内容
9:30～12:00	150	演習2-2	実践研究2 演習 ※休憩を含む
12:00～13:00	60		昼休憩
13:00～14:55	115		実践研究2 演習 ※グループ毎での休憩を含む
14:55～15:05	10		演習振り返り
15:05～15:15	10		休憩
15:15～17:00	115	演習3-1	実践研究3 演習 ※休憩含む

● 演習第 3 日目 (1月14日)

川越市東部地域ふれあいセンター 多目的ホール

時間	所要	小单元	内容
9:30～12:00	150	演習3-2	実践研究3 演習 ※グループ毎での休憩を含む
12:00～13:00	60		昼休憩
13:00～14:20	80		実践研究3 演習 ※グループ毎での休憩を含む
14:20～14:30	10		休憩
14:30～17:00	150	演習4	研修全体の振り返り ※休憩含む



演習 2 - 1

実践研究 事例の共有と相互評価 I

アセスメントの検討、スーパービジョンの体験

【演習統括】

藤川 雄一 埼玉県相談支援専門員協会

【演習講師】

市村 綾子 北信圏域障害者総合相談センター

大友 崇弘 地域支援センターひまわり

岡西 博一 かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク

小島 一郎 名東区障害者基幹相談支援センター

梅田 耕 埼玉県相談支援専門員協会

岡村 英佑 埼玉県相談支援専門員協会

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

本科目の概要と獲得目標

【科目概要(告示案)】

- ① 相談支援の基礎技術に関する実習 1 により各自が作成した事例情報、アセスメント及びプランニングの内容について、グループごとに共有および意見交換を実施する。
- ② 利用者が持つ内面的及び環境的な強みを重視したアセスメントを実施できているか、プラン内容の根拠として収集された情報からのアセスメント結果が適切であるかどうか等に留意し、受講者による相互評価を行う。

【獲得目標(告示案)】

- ① 自ら実施したアセスメント及びプランニング等について、その根拠を踏まえて分かりやすく説明できる技術を修得する。
- ② 他者からの多角的な意見により視点が広がり、アセスメントが深まることを理解する。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

【2】実習課題の検討 スーパービジョンの体験

本演習でのグループ討議の目的

- ・ 支持的環境の中で、複数の視点(多角的視点)により、業務(自らの方針・支援)を振り返る。
 - 気づきや新たな視点・資源等の知識の獲得、合議による支援方針の決定
 - 支援の質の向上
 - 利用者(障害のある人)の夢・希望の実現、生活の質の向上
- ・ 演習2-1では、特にアセスメントに焦点をあてて、グループ討議により検討を行う。

グループ討議のルール

・グラウンドルール

- ① 端的に発言する（最長30秒！）。
- ② 積極的に参加し、たくさん発言する。
- ③ 否定的な発言はしない。受容的な雰囲気醸成する。
- ④ 求められたゴール・課題に向けて発言する。
（自分の興味・関心で発言するのではない！）
- ⑤ 多様な意見が場に出るようにつとめる。
（自分ばかりが発言しないよう留意する。）
- ⑥ 根拠を持って発言する。
- ⑦ 時間を守る（ファシリテータが時間管理します）。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修, SSA2018-2019(c) 不許複製

グループ討議の方法

・構造化されたグループ討議

- ・ 討議のプロセス自体が時間で区切られ、それぞれのプロセスの役割が明確化されている。
- ・ 討議に参加する者の役割が明示され、プロセス毎にその方法が規定されている。

・構造化の意図

- ・ 参加者にとって目的や方法がわかりやすく、よい討議が実現しやすい。
- ・ 水平な関係による討議が展開しやすい。
- ・ （求めるゴールに向けて）焦点化された議論がしやすい。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修, SSA2018-2019(c) 不許複製

ステップ		事例報告者	グループメンバー (事例提供者以外の参加者全員)
1	準備 配布	全体を通して、よい雰囲気づくりにつとめる。	
2	報告セッション 報告 7分 読み込み 3分	<ul style="list-style-type: none"> 主にニーズ整理票を用いて報告する。 単なるシートの読み上げとならないよう、端的に説明する（「簡素なスケッチ」）。 報告内容は6点 	<ul style="list-style-type: none"> 報告の間は発言しない（黙って聴く）。
3	質問セッション 質問 10分	<ul style="list-style-type: none"> グループメンバーからの質問に端的にテンポよく答える（原則一問一答）。 質問された内容以上の回答や説明は控える。 わからないことはわからないと答えてよい（推測による回答は避ける）。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践例の要点、判断理由などの欲しい追加情報や不明点等について、簡潔に質問する（原則一問一答）。 提出意図に焦点をあて、自分なりの本人像の組み立てのために（意図・根拠をもって）質問。 ただし、質問の根拠は省略し、求めたい内容のみ質問する。 これまでの講義や演習1で提示された視点に沿って質問する。
4	ブレインストーミング (バズセッション) 本人像の共有 5分 討議	<ul style="list-style-type: none"> このセッションでは発言・反応しない。 黙って聴き、出された発言(本人像・アイデア等)を記録票に記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> 水平の立場で発言。他人の批判をしない。 積極的に発言する。 自分の発言が少ないと感じたら、思ったことを口にしてみるとよい。 端的にテンポよく発言する。 事例報告者をほうを向かず発言する。 より具体的・創造的な発言がよい。
5	応答 今後の取り組み 講師コメント含む 5分	<ul style="list-style-type: none"> 出された本人像やアイデア、解釈や意見に対し、応答する。 次回の課題に向け、(次いつ会うか・)どのような関わりをしてみようと思うか具体的に表明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の人の良い着眼点やアイデアをさらに展開させたり、今まで提示されていない視点・ストレングスに転換してみることも効果的。

プロセス
(手順)

ひとり
45分

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修, SSA2018-2019(c) 不許複製

実習 1 発表の準備

・ **報告の内容** ・ **7分間**で（時計・タイマーを出してください!）

- ① 本人像の要約（状況を簡潔に） ← 100字要約
- ② 本人との関わり（経緯）
- ③ 本人の（と）定めたゴール
- ④ 本人のゴール達成に向けての課題・スモールステップ
- ⑤ 本人のストレングス
- ⑥ 実践例の選定理由（自らの課題意識）

※主にニーズ整理票を用いて報告する。

※**単なるシートの読み上げとならないよう、端的に報告**する。

本演習でのグループ討議の目的

- ・ **支持的環境**の中で、**複数の視点(多角的視点)**により、**業務(自らの方針・支援)を振り返る**。
 - 気づきや新たな視点・資源等の知識の獲得、合議による支援方針の決定
 - 支援の質の向上
 - 利用者(障害のある人)の夢・希望の実現、生活の質の向上

- ・ こうした営みを「スーパービジョン(SV)」と呼ぶ。
- ・ 特に今回のような形をグループスーパービジョン(GSV)という。
 - ・ 事例報告者(スーパーバイザー / SVE, SVEE)
 - ・ その他のグループメンバー(スーパーバイザー / SVR, SVER)
 - ※その中で演習講師はファシリテータ役をつとめる。
- ・ 繰り返し、継続的に行う必要がある。
 - ・ 特に相談支援では現場となる地域で実施する必要性。
- ・ 今回の方法を地域で実施できるよう、埼玉県として取り組んでいる。

トレーニング
が必要

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修, SSA2018-2019(c) 不許複製

グループ討議の方法

- ・ **グループスーパービジョンの利点** (小澤温)
 - ・ 想像的な代替策のアイディアの源泉
 - ・ 利用者行動の内面的な理解(内的解釈)
 - ・ 同僚への励ましと支持(チームとしての共感性)
 - ・ 成功した実践への分かち合い
 - ・ クライアント(利用者)との直接的な関わりのない同僚の視点から開かれること。
 - ・ チーム全体がクライアント(利用者)をよく知るため、担当者の幅が広がる。
 - ・ チームとしての学習効果が高まる。
(個別ケースのアイディアから他のケースへの応用)

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修, SSA2018-2019(c) 不許複製

実習2 ガイダンス（課題の内容）

・実習2の課題

① 再アセスメントを行う。

- ・実習1で作成した様式の加筆修正を行う。
（実習1と文字色を変える、削除を見え消しとするなど、変化が可視化できるようにする。）
- ・記録・振り返りシート【4】に記入する。

② サービス等利用計画案の作成を行う。

- ・提出するものは以下の4点。
 - 1) サービス等利用計画案
 - 2) 週間計画表
 - 3) 申請者の現状（基本情報）
 - 4) 申請者の現状（現在の生活）

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

実習2 ガイダンス（発表の準備）

・実習2の課題

- ・次回の研修において、ケースレビューを行います。
- ・**7分間**で以下の要領で概要を発表できるよう、準備しておくこと。
 - ① 再アセスメントの結果変化したところとその要因
 - ② サービス等利用計画作成案の際留意した視点
 - ・社会資源やチームメンバーの選定意図や留意した点
 - ・基本的視点と照らし合わせ留意した点
 - ③ 再アセスメント、プラン作成にあたり、困難・疑問を感じた点

※**単なるシートの読み上げとならないよう、端的に報告**する。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製



演習 2 - 2

実践研究 事例の共有と相互評価Ⅱ

支援方針・サービス等利用計画案の検討、ケースレビューの体験

【演習統括】

藤川 雄一 埼玉県相談支援専門員協会

【演習講師】

市村 綾子 北信圏域障害者総合相談センター

大友 崇弘 地域支援センターひまわり

岡西 博一 かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク

小島 一郎 名東区障害者基幹相談支援センター

梅田 耕 埼玉県相談支援専門員協会

岡村 英佑 埼玉県相談支援専門員協会

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

本科目の概要と獲得目標

【科目概要(告示案)】

- ① 相談支援の基礎技術に関する実習 1 により各自が作成した事例情報、アセスメント及びプランニングの内容について、グループごとに共有および意見交換を実施する。
- ② 利用者が持つ内面的及び環境的な強みを重視したアセスメントを実施できているか、プラン内容の根拠として収集された情報からのアセスメント結果が適切であるかどうか等に留意し、受講者による相互評価を行う。

【獲得目標(告示案)】

- ① 自ら実施したアセスメント及びプランニング等について、その根拠を踏まえて分かりやすく説明できる技術を修得する。
- ② 他者からの多角的な意見により視点が広がり、アセスメントが深まることを理解する。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

【2】 支援方針・サービス等利用計画案の検討 ケースレビューの体験

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

本演習でのグループ討議の目的

- ・ 支援方針や支援プランを決定する過程で、
複数の視点(多角的視点)による検討を経る。
 - ひとりの支援者（機関）による抱え込みの防止
 - 合議による支援方針の決定
 - 支援の質の向上
 - 利用者（障害のある人）の夢・希望の実現、生活の質の向上

- ・ 会議では多くのケースを扱う必要がある。
 - 実務に取り入れるには、端的さが求められる。

トレーニングや
準備が必要

- ・ ケースレビューの結果、さらに検討が必要と判断され、事例検討やスーパービジョンの題材となることもある。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

ステップ		事例報告者	グループメンバー (事例提供者以外の参加者全員)
全体を通して、よい雰囲気づくりにつとめる。			
1	準備配布	・グループ人数分資料を用意し、配布。	
2	報告セッション 読み込みの時間を含む 報告 7分 読み込み 3分	・主に振り返り票とサービス等利用計画案に基づいて報告する。 ・報告の柱は3点。 ・相談支援の目的や基本的視点、プロセス毎の留意点等と自らの実践を対比し、支援に際して留意した点、困難を感じた点を端的に説明する。	・報告の間は発言しない(黙って聴く)。
3	質問セッション 5分	・グループメンバーからの質問に端的にテンポよく答える(原則一問一答)。 ・質問された内容以上の回答や説明は控える。 ・わからないことはわからないと答えてよい(推測による回答は避ける)。	・欲しい追加情報や不明点、方針や資源選択(判断)の根拠等について、簡潔に質問する(原則一問一答)。 ・本人のゴール達成にむけて、意図・根拠をもって質問。 ・ただし、質問の根拠は省略し、求めたい内容のみ質問する。 ・これまでの講義や演習1で提示された視点に沿って質問する。
4	ブレインストーミング (バズセッション) 15分	・このセッションでは発言・反応しない。 ・黙って聴き、出された発言を記録票に記録する。	・水平の立場で発言。他人の批判をしない。 ・積極的に発言する。 自分の発言が少ないと感じたら、思ったことを口にしてみるとよい。 ・端的にテンポよく発言する。 ・事例報告者をほうを向かず発言する。 ・より具体的・創造的な発言がよい。
5	応答 今後の取り組み 講師コメント含む 5分	・改めて出された本人像やアイデア、解釈や意見に対し、応答する。 ・今回得られた気づきや新たな視点などを表明する。	他の人の良い着眼点やアイデアをさらに展開させたり、今まで提示されていない視点・ストレングスに転換してみることも効果的。 気づきはありましたか?

プロセス
(手順)

ひとり
35分

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

実習2 発表の準備

・ 報告の内容 ・ 7分間で (時計・タイマーを出してください!)

- ① 再アセスメントの結果変化したところとその要因
- ② サービス等利用計画案作成の際留意した視点
 - ・ 社会資源やチームメンバーの選定意図や留意した点
 - ・ 基本的視点と照らし合わせ留意した点
- ③ 再アセスメント、プラン作成にあたり、困難・疑問を感じた点

※ **単なるシートの読み上げとならないよう、端的に報告**する。

【演習3】 実践研究3 事例研究とサービス等利用計画作成

ケアマネジメントプロセスの定着

【演習統括】

梅田 耕 埼玉県相談支援専門員協会
岡村 英佑 埼玉県相談支援専門員協会

【演習講師】

市村 綾子 北信圏域障害者総合相談センター
大友 崇弘 地域支援センターひまわり
岡西 博一 かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク
小島 一郎 名東区障害者基幹相談支援センター

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

本科目の概要と獲得目標

ここまでの総復習。
まとめの演習です。

【科目概要(告示案)】

- ① 実習により作成した事例より1事例選択し、グループによる再アセスメントを実施し、ニーズの明確化および支援の検討を行う。選択事例の地域に存在する社会資源を想定して具体的なサービス等利用計画(障害児支援計画)を作成する。

【獲得目標(告示案)】

- ① グループによる事例研究を通じて、サービス等利用計画作成についての理解を深め、技術を修得する。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

【演習3】すすめかた（第6日目）

実践例の選定方法

- ・ 本日の到達点：アセスメント（ニーズ整理）まで
- ・ 選定にあたっての視点
 - ① ケアマネジメント手法の適用が妥当。
 - ② 障害福祉サービス／児童福祉法のサービスを1つ以上利用することが想定される。
 - ③ インフォーマルな資源の活用を考えやすい。
 - ④ 複数の人や機関がかかわる（チーム支援が必要）。
 - ⑤ 地域課題がありそう。

すべての視点を満たすこと。
わからない時は演習講師を頼りにしよう。

【演習3】**実践研究3 事例研究とサービス等利用計画作成**

ケアマネジメントプロセスの定着

**【演習統括】**

梅田 耕 埼玉県相談支援専門員協会
岡村 英佑 埼玉県相談支援専門員協会

【演習講師】

市村 綾子 北信圏域障害者総合相談センター
大友 崇弘 地域支援センターひまわり
岡西 博一 かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク
小島 一郎 名東区障害者基幹相談支援センター

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

本科目の概要と獲得目標

ここまでの総復習。
まとめの演習です。

【科目概要(告示案)】

- ① 実習により作成した事例より1事例選択し、グループによる再アセスメントを実施し、ニーズの明確化および支援の検討を行う。選択事例の地域に存在する社会資源を想定して具体的なサービス等利用計画(障害児支援計画)を作成する。

【獲得目標(告示案)】

- ① グループによる事例研究を通じて、サービス等利用計画作成についての理解を深め、技術を修得する。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

【演習3-2】 すすめかた（第7日目）

進行方法（7日目）

・グループ討議のすすめかた

- ① 資源活用のストレッチ【30分】
- ② サービス等利用計画の作成【100分】
- ③ チーム支援・多職種連携、
地域づくりの視点と地域課題の検討【80分】

討議の視点 ※以下の視点に基づき、実践・アセスメント結果を検討。

ケアマネジメント手法においても変わらない。

相談支援の目的

- ① 本人のその人らしい地域での暮らし
- ② 障害のある人を含めた誰もが暮らせる地域づくり

相談支援・ケアマネジメントの基本的視点

- ① 個別性の重視
- ② 生活者視点、QOLの重視
- ③ 本人主体、本人中心
- ④ 自己決定(意思決定)への支援
- ⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目
- ⑥ 権利擁護(アドボカシー)
- ⑦ 地域の多様な資源へのアクセスと活用、資源開発
- ⑧ チームアプローチ、多職種連携

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

ケアマネジメントプロセス毎のチェックポイント①

① 関係性の構築

- エンゲージメント(強い信頼関係)ができているか。
- 共感的理解、生活の視点による本人理解ができているか。
- 本人にとって良い環境や方法で面接等ができているか。

② インテーク・アセスメント

- 適切な受理判断や支援方法の選択をしているか。
(ケアマネジメントの対象者か、緊急性の判断は適切か。)
- 本人の思いは聞いているか、主訴や課題感は本人のものになっているか。
- 本人の意思や目標・希望が明確になる(焦点化される)支援ができているか。
- 本人の意思形成や伝達、選択に困難がある場合の支援ができているか。
- 本人の目標・希望の実現にむけ、必要な情報が収集できているか。
- 様々な情報源からの多角的な情報収集(共有)ができているか。
- 障害や疾病、問題・課題よりも、本人のストレングスに着目できているか。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

ケアマネジメントプロセス毎のチェックポイント②

③ プランニング、モニタリング

- 本人が決定し、共有されているゴールに向けてのプランであるか。（本人が前向きになれるプランであるか。）。
- その実現に必要な地域の社会資源が柔軟に捉えられているか。
- その実現に必要な人材がチームに参画しているか、役割分担がなされているか。
- 本人にとってわかりやすい言葉で書かれているか。
- 本人が前向きになれるプランか／なれる言葉で書かれているか。
- 達成できる可能性の高いプランであるか（スモールステップが刻まれているか）。
- 時期にかなったプランになっているか。
- 達成したかどうか分かるプランになっているか。
- アセスメント結果を活かし、矛盾のないプランであるか。
- プランの実現や本人への支援に必要なモニタリング期間を設定できているか。
- 関係者からも含めた複数の視点からのモニタリングができる。
- 必要に応じ、サービス担当者会議を開催できているか。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

ケアマネジメントプロセス毎のチェックポイント③

④ 評価・終結

- 本人の意向や満足度、関係者からの意見等を踏まえた判断をしているか。
- ひとりで判断せず、合議により終結を判断しているか。
- 終結しても必要に応じていつでも再開できることを本人に伝えているか。

⑤ 多職種連携・チームアプローチの視点

- 必要な人材をチームにしているか／役割分担ができているか。

－サービス担当者会議・ケア会議－

- 会議の目的と議題を明確にして会議を運営できているか。
- 本人が参加した会議を開催しているか。
- 必要な参加者を会議に招集しているか。
- 全員が主体的に参加できる会議運営をしているか。
- 決定事項を共有し、役割分担がする会議運営ができている。
- 次の開催を決めて終了している。

新カリキュラムに基づく相談支援従事者養成研修モデル研修(初任者研修), SSA2018-2019(c) 不許複製

ケアマネジメントプロセス毎のチェックポイント④

⑥ 地域への視点

- 地域課題が意識できるよう、基幹相談支援センターと連携したり、スーパービジョンや地域の合議の場に参加しているか。
- ひとりや自分の事業所では本人と定めたゴールが達成できない場合、そのままにせず地域の協議の場に課題を提出しているか。
- 実践例のクライアント本人だけでなく、複数の利用者に共通する課題がないか意識できているか。
- 地域課題を抽出し、その背景（理由）を分析できているか。
- どのような資源があると、その課題は解決するか考えているか。
- その資源を生み出したり、アクセスできるようにするためにはどのようにしたらよいか考えているか。